## 学校防災年間計画(高等学校)

【生徒、学校、地域の実態】 平成28年熊本地震で、本校も大きな被害を受け、長期の教育活動の中断を余儀なくされた。校内では、現在も復旧のための工事等が進行中であり、復興半ばである。生徒は広範囲から通学してきているため、被災の意識に関してかなりの差が見られる。また、益城町や西原村、阿蘇方面から通学してきている生徒もいる。

	防災教育		┃ 防災管理 ┃ 組織活動 ┃
月	教科	特別活動	関連行事
4	■数学・数学 II (2年) 指数対数関数において地震の大きさを示すマグニチュードの計算 に利用されることを知る ■地歴公民・日本史A(2年) 安政地震について知る ■地歴公民・地理A(2年) 火山活動と災害で地震災害について学ぶ	■防災に関する科学研究 (理数コース)	■生徒防災委員会設置 ■防災通信発行
5	■情報・社会と情報(1年) 情報モラル・震災時の情報収集でSNSが果たした役割を学ぶ。また昨年の動物騒動をもとに、情報の見極め方を学ぶ。 ■数学・数学 I (1年) 2次関数・情報を得るためにパラボラアンテナに放物線を利用していることを示す。 ■地歴公民・政治経済(3年) 財政、補正予算で災害対応予算を知る ■地歴公民・地理A(2年) 地形と災害で崖崩れと洪水対策について学ぶ		■防災通信発行
6	■理科・地学(3年) 地震と災害について学ぶ ■数学・数学B(2年) ベクトル・力を表すのに有向線分が利用され風向きなどに使われていることを知る。 ■地歴公民・地理A(2年) 熱帯低気圧と災害について学ぶ ■国語・国語総合 『羅生門』を取り扱う中で、災害時の心理について考える。	■生徒防災委員会	■第1回学校運営協議会 ■職員研修(本校の防災教育、防災 の基礎知識)
7	■理科・地学(3年) 地震と災害について学ぶ ■数学・数学A(1年) 場合の数・確率・降水確率など確率の意味を知る ■地歴公民・日本史B(3年) 明暦の大火について学ぶ ■地歴公民・地理B(3年) 村落の立地と災害対策について学ぶ	■防災教育 I (LHR) 1年 防災における心構えと 基礎知識 2年 AED・救急救命研修 3年 避難所運営シュミレー ションゲーム ■ 防災に関する小論文コン クール(3年)	■避難訓練 I ■先進地視察(兵庫) ■防災通信発行 ■オープンスクール(防災教育) ■校内安全点検
8		■熊本×東北 復興P参加 ■避難所体験 ■京都東稜高校との交流会 ■生徒防災委員会	■緊急地震速報受信システム設置 ■多賀城高校との交流 ■第2回学校運営協議会
9	■地歴公民・日本史A(2年) 関東大震災について学ぶ ■地歴公民・日本史B(3年) 島原大変肥後迷惑について学ぶ ■地歴公民・現代社会(1年) 地方自治について学ぶ	■防災に関する小論文コンクール(2年) ■防災教育Ⅱ(LHR) 防災の専門家による講演会 ■文化祭発表 ■人と防災・未来センター研修 ■京都東稜高校との交流会	■防災通信発行 ■職員研修(安全マップ) ■アクサユネスコ東北実地研修 ■オープンスクール(防災教育講演会)
10	■英語・英語表現 II (2年) 「L.12ボランティア活動」: 震災時を含めたボランティア活動体験や 感想を表現させる。 ■家庭・家庭総合(1年) 被服分野、燃えにくい素材について学ぶ		■SPS視察 ■校内安全点検
11	■数学・数学A(1年) データの分析において過去のデータが蓄積され、未来予測等に利用されていることを知る ■家庭・家庭総合(1年) 食生活分野において、保存食、非常食・レトルト食品について学ぶ	■生徒防災委員会	■防災訓練·避難訓練 II ■第3回学校運営協議会 ■防災通信発行
12	■数学・数学皿(3年) 2次曲線において情報を得るためのパラボラアンテナなどに放物線が利用されていることを知る ■家庭・家庭総合(1年) 米の話α 化米について学ぶ(非常食)	■生徒防災委員会	■第4回学校運営協議会
1	■情報・社会と情報(1年) 情報システム・GISを使った震災被害の想定把握について学ぶ		■防災通信発行
2		■生徒防災委員会	■第5回学校運営協議会 ■校内安全点検 ■避難訓練皿
3	■理科地学(2年) 気象と災害について学ぶ ■家庭・家庭総合(1年) 住居分において間取り、耐震構造について学ぶ		■防災通信発行